

第1回 宇部市多文化共生推進ビジョン策定委員会 会議録

■日時・場所

日時： 令和5年6月16日（金曜日） 15：00～16：45

場所： 宇部市役所本庁 3階 3-3 会議室

■次第

1. 宇部市副市長 挨拶
2. 委託状交付
3. 委員等及び事務局の紹介
4. 委員長の選出
5. 議題
 - (1) 策定に対する考え方及びスケジュールについて
 - (2) 宇部市における外国人住民の現状について
 - (3) 外国人住民及び外国人住民に係る機関等へのヒアリング内容について

■資料

資料1 : 第1回宇部市多文化共生推進ビジョン策定委員会資料

資料2 : 多文化共生に関する環境分析

■会議風景



■参加者

* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属・役職	出席
委員	ソーレンセン・アリエル・キース	山口大学国際総合科学部 准教授	○
委員	川崎 千枝見	山口大学留学生センター 助教	○
委員	小寺 紀美代	日本語クラブ宇部 代表	○
委員	安光 善美	宇部公共職業安定所 統括職業指導官	○
委員	西山 一夫	ユー・アイ・ケイ協同組合 顧問	○
委員	石崎 輝正	社会福祉法人 宇部市社会福祉協議会 地域福祉課 課長	○
委員	田中 辰夫	宇部市自治会連合会 川上地区 会長	○
委員	田中 沙織	公益財団法人 山口県国際交流協会 主任	○
委員	原 浩一郎	宇部市小学校長会 会長	○
委員長	富田 尚彦	宇部市観光スポーツ文化部 部長	○
アドバイザー	松田 恭明	山口県観光スポーツ文化部国際課 課長	○
オブザーバー	品川 大和	山口県宇部警察署生活安全課 課長	○
事務局	藤崎 昌治	宇部市副市長	○
事務局	上田 優作	宇部市観光スポーツ部観光交流課 課長	○
事務局	三宅 敦子	宇部市観光スポーツ部観光交流課 副課長	○
事務局	財前 彰文	宇部市観光スポーツ部観光交流課 係長	○
事務局	小野 健次郎	宇部市観光スポーツ部観光交流課	○
事務局	金子 茉由	宇部市観光スポーツ部観光交流課	○
事務局	八木 周吾	ランドブレイン株式会社(コソカ)	○
事務局	田添 雄大	ランドブレイン株式会社(コソカ)	○
事務局	小川 敦	ランドブレイン株式会社(コソカ)	○

4. 委員長の選出

推薦により、宇部市観光スポーツ文化部 富田尚彦が委員長に選出された

5. 議題

(1) 策定に対する考え方及びスケジュールについて

－ 事務局から説明（記録省略） －

富田委員長	只今の事務局の説明について御意見いかがでしょうか。
西山委員	策定のスケジュールでアンケートは、既に実施したということですが、山口県が今からまたアンケートを行われますが、そことの整合性はどうかの点について、山口県も同時に計画を作っているため、整合性をどこで調整するのでしょうか。
事務局	アンケートは、昨年度末から実施をして、すでに結果を頂いている状態です。今回の会議でアンケートを踏まえた課題等を少しお見せしたいと思い、まずはアンケートを昨年度行いました。内容の整合性については、県のスケジュール県の骨子や素案を見ながら、もちろん整合性をとっていく予定です。どこで整合性をとっていくのかという部分は、具体的には決めておらず、そこはこれから検討しながら進めていきたいと思っております。
西山委員	県も策定は今年度中であり、そのため、来年の3月には市の計画と県の計画が同時に立ち上がる訳です。そこでよく心配しているのが、ちぐはぐになることです。その辺りの整合性を上手にとつていかないと、そこに差が出てくると問題があります。それをこのスケジュールだけ見ると、どこでそれを行うのかと思いました。県は県で市は市で走っていき、アンケートをやりました。実は市のアンケートはこの結果ですが山口県全体のアンケートはこうでした。そういった中で、宇部市だけのものは出ますか。アンケートの集計結果は、宇部市分や山陽小野田市分というものは出せるのでしょうか。それとも、アンケートは山口県として出るのでしょうか。
松田委員	県のアンケートは、地域単位で集計が出る予定です。
西山委員	その辺りの整合性は、しっかりとつていかないといけません。国の計画との整合性はありますが、国の場合は大まかな計画になります。県の場合は、相当細かい部分も出てくると思われますし、その後に宇部市がある訳なので、そこで中身が少し違うということはあつてはならない訳です。その辺りを、確実に整合性をとつて欲しい、どこかで当然行わなければならないので、厳しく行って欲しいです。
事務局	宇部市のアンケート項目にない項目が県にはあつたりすると思つています。そこはしっかりと宇部市分として反映して確認しながら、中を見ていきたいと思つています。今から話しますが、多文化共生の中で一番の課題は、特定技能や技能実習生等が大きなポイントとなつてくつと思つています。この辺りの状況も、それぞれの市町で実は違つており、下関市はこのような業種にこのような人が多いなどというふうになつてくつため、その辺りを踏まえながら、県のアンケートの中身を見ながら、宇部市

も進めていきたいと考えています。

富田委員長 西山委員が言われたとおり、県のデータを確実にもらった上で、整合をとって進めていただけたらと思います。先ほどの御説明の中でヒアリングが行われるとのことなので、その辺りの時間軸と県が行ったアンケートの時間軸を調整し、聞きながら整理していただけたらと思います。今回は問題点の洗い出しとのことだったので、次回はおそらく課題などそのような部分の整理になると思うので、確実に県のデータと方向性を確実に捉えて整理していただけたらと思います。

西山委員 基本的なことだけなので、少し話します。市の考え方の中に、人口が減少する中で、「本市の外国人の住民は長期的に増加する傾向にある」と、若干増えてくるのだらうと思いますが、県の会議でも私は申し上げたのですが、おそらく増えると思うのですが本当に増えるのかどうかということをして確認するのでしょうか。そのときに、どんな在留資格を持った人たちが増えるのかということによっては、対応がずいぶん変わってくるのだらうと思います。先ほど事務局が技能実習や特定技能の話がされましたが、具体的なものが全く分からない状況の中でその制度改正が入ってきます。それに基づいた人が増えてくると言われても、どのような人が増えてくるのでしょうか。そして、特定技能の2号が出てきて来年から始まりますが、その人たちは家族帯同ができるという話が今出てきています。それが本当に山口県に来られるかは分かりませんが、その辺りの見極めが非常に難しいのではないかという、ある意味非常にタイミングが悪いと思います。方向性が出た後であれば作りやすいのですが、国は大まかに作るのだと思いますが、非常に難しいということが懸念としてあります。また、宇部市に本当にそのような人たちが来るのか来ないのが全く見えない状況で、どのような人をターゲットにしていくのかということです。資格的には永住者や特別永住者、留学生などが来ますが、それまで来ている人たちの在留資格の内容によって、ずいぶん来る人たちのレベルが違うため、どこにターゲットを絞るのか、絞らなくて全般的にアバウトに行うのかということを含めて、そのようなことを確実に踏まえた上で作ってほしいと思っています。これはお願いだけです。

(2) 宇部市における外国人住民の現状について

－ 事務局から説明（記録省略） －

富田委員長 ポリユームの多い説明だったため、なかなか意見をもらうのは難しいかもしれませんが、国と県の状況、それと市の状況・市のアンケートをとり、問題点をこのような傾向にあるということの説明いただきました。これに関して、御意見と今皆様は活動されている方で、これ以外にもこの様な問題点があるのではないかということがもしあれば、何なりと御意見頂ければと思います。

川崎委員 確認をしたいのですが、このアンケートの実施について、日本人はNが654ということなので、654人が回答しているということでしょうか。それで、このようなアンケートが、市全体の考え市民の意見を代表するものであるかどうかということが、非常に大事になるかと思いますが、どのような方々にアンケートを

	とったのか聞きたいです。外国人に対するアンケートも同様に、例えば日本語教室に来ている人を中心に声を掛けているアンケートなのか否かという点で、だいぶ結果が違って来るかと思えます。そちらをまず教えてください。
事務局	まず日本人ですが、これは無作為抽出で 2,000 通送っています。回答が 654 件で、約 3 割の回答率となっています。外国人は、宇部市が外国人登録 2,100 人ほどいます。特別永住者を除く方の全員を対象にしています。回答率はおよそ 3 割となっています。
川崎委員	その外国人の回答者の割合は、市の在留資格や国籍等反映するものになっていいますか。
事務局	回答者の属性は、アンケートの中で把握しています。
川崎委員	分かりました。
富田委員長	私から意見をお願いしたいのですが、自治会の関係で色々な問題などがあると思いますが、田中(辰)委員どうでしょうか。
田中(辰)委員	私の地区は川上地区になります。ごみの出し方に問題があります。自治会に入っている方もいますが、アパートに住んでいる方が多いので、そのアパート自体が自治会に入っている所もあれば、入っていない方もいます。特に問題があるのは、自治会に入っていないアパートの外国人の方ですが、川にごみを捨てたり川の魚を捕って食べたりなど、日本人では考えられませんが、そのような部分があります。先般、立札を立てようという話が出ています。やはり国が違うため、そのような感覚が向こうは当たり前だと思っているのかも知れませんが、その辺りを私の地区の行事で祭りなど色々なイベントがあるため、そのようなときに外国人も招いて、コミュニケーションを図れば良いのではないかと感じています。
キース委員	1つだけ聞きたいことがあるのですが、アンケートの中に日本語を勉強していますかなどの質問がありましたが、会話レベルについてアンケートに何も載っていないと思いました。ということは、日本語を上手く話せるならば、おそらく勉強していないということになります。それについて何か考えたりしましたか。
事務局	アンケートの中で、話せるレベルまで聞いたかどうか、そこまでは聞いていません。
安光委員	私どもハローワークでは、ときどき外国人の方が、仕事がないですかということと来るときがあります。しかし、数はかなり少なく、話せるレベルがやはり人によって違い、本当に片言で来て、よくよく聞くと、仕事がないので何か仕事はないですかということだと思えます。英語ではなかったりする人でおそらくアジア圏だと思いますが、そのような人が英語も日本語も話せないとなると非常に私たちも対応が難しく、大変困ったこともあります。中には日本語がわかる人と一緒に来る人もいます。それであればスムーズに仕事の話をする場合もあります。基本的には、在留カードを見せていただき在留期限や就労制限があるか、留学生の方も家族帯同の方もそうですが、全員が仕事をして良いという訳ではないので、よく確認をしてから受けるようにしています。

私どもは宇部市で外国人の技能実習と特定技能の支援機関を20年近くやっておりますが、来られる方々はまず勉強はしません。全員ではないのですが、日本語を勉強しようとする方は非常に少ないです。一部、勉強している方もいますが、来る前に何か月か勉強をし、私どもの所で2か月勉強して配属するのですが、配属した後に勉強する人は少ないです。もちろん、勉強する場所がないなどの事情はありますが、ならば勉強する場所があれば勉強しに行くのかというと、中々難しくそこが一番課題だと思いますし、配属した後が大変です。私どもの場合は、通訳を抱えておりますので、会社に配属した後はそれぞれの言語でフォローをしておりますが、トラブルが無い訳ではありませんし、勉強をさせることが非常に大変だということが実態です。言葉が分からなければ、生活にも支障が出てきます。ごみの問題も市内中で起きています。私どもの所は、山口県西部地域で地元の方との協力の下でやっております、トラブルがあれば現地へ行き、そこで地元の方と協議をしてやるのですが、そうやっていてもトラブルはあります。原因としては生活習慣の違いですが、ごみの集積で収集日も分からず出すと「違う」と怒られ、それが原因でごみを集積所に出さず溜まっていき、しょうがないので捨ててしまうということがあります。自治会から警察、警察から会社と連絡が行き、私どもの所へ連絡が来た事例ですが、中国から来たばかりの人で、会社の先輩から「着るものを置いて帰ったので、捨てておいてくれ」と頼まれ、何のことも分からずに通勤途中のごみ捨て場に捨てたのですが、それを自治会の人が見ており、その場で本人に直接話さずに警察に通報され、会社から私どもの所へ連絡が来ました。自治会の方も、警察にではなく、まずは会社に連絡をしていただきたい。また、魚の問題ですが、魚を捕る人もいます。「なぜ魚を捕ってはいけないのか」と言われます。日本の事情を説明するのですが、来たすぐの人は中々理解せずトラブルになるケースは多々あります。我々は宇部市で監理組合をやっているのでフォローアップするので大きな問題はないのですが、一番心配なことは監理組合が必ずしも近くではないということです。大阪・福岡・広島などから来る人が多く増加しており、遠方の監理組合が宇部市まで来られる訳がないので、そういった所から来た方々の監理がノーマークになっている状態です。企業の方へ話すときに、できる限り近くの組合でやった方が良くと話すのですが、こういったことが実態としてあります。ごみ問題が典型例で、本人たちも悪いのですがその部分をきっちりと理解した上で、地元の方から話していただくと解決できることが中々できないというケースが多々あります。個別の案件はこれら以外にもあるのですが、基本的には特別永住者や永住者へのフォローアップはあまり必要ないのではないかという気はします。一番心配しているのは、特定技能2号の家族帯同の方が入ってきたときに学校教育をどうするのかということです。日本語をしっかりと勉強してくれれば良いのですが、中々難しいと思うのでそこを心配しています。教育体制をしっかり作って欲しいというのが、我々の切実な気持ちです。遠方の方がどうすればここに勉強に来られるのかということです。ベースはやはり日本語教育だと思います。一番心配しているのは家族帯同の方の日本語教育はゼロからスタートするので、その方たちのフォローをどうするかということです。そのフォローがないと、近隣の自治会とのトラブルがどんどん大きくなりますし、資料

	に記載の各種の心配事が可能性はゼロではないので、そういったトラブルがないようにしてもらいたいです。
富田委員長	クロス集計はできますか。傾向を出していかなければ、今後どうしていくかが分からないのですが、事務局で可能でしょうか。
事務局	可能です。
西山委員	もう一点、アンケートに病院へ行けないという記載がありますが、言葉がよく分からないので病院に行けないという切実な問題が山ほどあります。片言の日本語では病院に行けない、行ったときに会話ができないので、医者は英語が喋れますが、来る方たちは英語ができる人は100人に1人しかいません。片言では医者とのコミュニケーションがとれず、医者側からすれば通訳を連れて来てくれという話になってきます。私どもの所は対応できますが、そうではない所の人たちは病院へ行けないというケースは多々あると思います。その辺りのコミュニケーションをどうやってとるのかということ、しっかりとやっていかなければ切実な問題として出てくると思います。
富田委員長	宇部市としては、よその地域とは違う傾向もあるので、その辺りの整理をしていただき今後どうなるのかということ、特定技能の職種が増えるということもあり、その辺りも踏まえて今後問題が更に増えてくると思いますので、その辺りの傾向を何らかの形で捉えていただきたいと思います。
田中(沙)委員	アンケートに関してですが、今回は抜粋版ということですが全体のものはまた示されるのでしょうか。また、技能実習生・留学生などどういった特性の方が多く回答されたのでしょうか。属性で悩みもだいぶ違ってきます。実習生の方だと日本語の問題などの言葉の問題が多いと思われまして、子育て世代の方は教育のことであるなど、色々な属性といったものの分析もしっかり進めてプランに入れていただきたいです。キース委員の御質問の補足ですが、県で全件のアンケート調査をする際に、どの程度の日本語ができるかという設問を入れられる予定であるとお聞きしていますので、宇部市にない設問の部分もしっかり分析をした上で、プランに盛り込んでいただければと思います。
事務局	集計したばかりなので、今後どういう風にするか考えていきたいと思っています。

(3) 外国人住民及び外国人住民に係る機関等へのヒアリング内容について

－ 事務局から説明（記録省略） －

キース委員	移動についての質問です。私の大学では、外国人が来ると最初に交通ルールであるとかバスの乗り方や電車の駅の場所であるとか、公共交通機関の乗り方について詳しく説明します。今回の話では出なかったもので、相談窓口の中にそういった情報があるのかお聞きしたいです。
事務局	宇部市だけの話になりますが、市営バスは多言語対応しているのではないかと思います。ただ、日本に来られた方に対して交通ルールを具体的に教えることなどはしていないのではないかと思います。学校のレクリエーションで教えているのかも

	<p>しませんが、宇部市としてそういったことをしているということは聞いておりません。</p>
西山委員	<p>大学に来る人たちの日本語レベルは通常どの程度の人たちでしょうか。普通はN2と言われますが、日本語レベルはN2 辺りで入ってくるのでしょうか。</p>
川崎委員	<p>山口大学のケースでは、留学生にもいくつか種類があります。学部留学生の場合は日本語で授業を受けるので日本語能力は高いのですが、大学院留学生の場合は英語で研究を遂行する学生もいるので、日本語を全く学んだことがないという人もいます。その一方で、日本語で博士論文を執筆するという人もいますので、山口大学の宇部キャンパスでは「はじめまして」「こんにちは」のゼロからの人もいれば、論文の書き方の授業をするクラスもあり、人によりけりです。また、学生が属しているプログラムや所属先によりけりです。</p>
西山委員	<p>入学するにあたって、日本に来て英語・日本語がある程度できる人たちの中で、語学の部分で生活に困る状態はあるのでしょうか。</p>
川崎委員	<p>日本語の授業を担当しているのですが、彼らなりに生活をしている状況にはありますが、英語はできるが日本語が全くできない学生で、アルバイトが中々決まらない状況にあり、非常に苦慮しているそうです。先輩が働いていた所に交代で入っていくといった形でしか見つけられず、留学生の場合は大変苦労していると聞きます。また、日本語が堪能な学生たちに関しても文化の違いの部分で、日本人の中でも持っている常識は違う訳ですが、そういった違いがある部分で摩擦が起きていることに気づき難いがゆえに、問題が大きくなってから気づくことなどがあります。そういったことが、個人の性格によるものだというふうに判断されてしまうと非常に不利益を被ることは有り得ると思います。留学生であるからという部分がどの程度あるのかという所が難しい所だと思います。学生たちに生活のことを聞いてみると、朝起きて大学院の研究室に来て夕方帰宅し、公園へ行き運動をして帰宅し就寝する人もおり、日本人と話すことはあるのか聞くと、先生くらいですという学生もたまにいます。フットワークが軽く日本人の学生と交流している人は良いのですが、中々それ以外の場所を意識して持っていない人は中々広がらない状況はあります。</p>
西山委員	<p>色々なケースやトラブルがあっても、その辺りは大学でフォローアップはするのでしょうか。</p>
川崎委員	<p>生活上のトラブルがある場合には、留学生センターに留学生相談委員のアドバイザーがいるので、在留資格の問題であったりアルバイトを探したが言語的な問題であったりといった場合に、少し間に入ることは担当者がしております。</p>
西山委員	<p>インドネシアの方のアルバイトを頼まれて随分やっていたのですが、大学院生で日本での生活が長い方は良いのですが、そうでない人は日本語が中々できないので問題がありました。在留資格によって全く対応が違うということです。留学生とは全く違うレベルの人たちが入ってくるので、そこをどうするかということをしかりと考えなければならないということです。本日はオブザーバーに警察署の方が来</p>

ておられるのでお聞きします。犯罪が間違いなく増えてきています。昔は中国人の犯罪が多かったのですが、現在はベトナム人の犯罪が非常に多いのは事実です。トラブルは大小様々ですが、人数が増えてくればトラブルが起きます。そういった実態も、しっかりとやっていかなければなりません。全国的に大きな犯罪も起きており、山口県でも万引きなどの犯罪も起きていますので、そういったことが起きないようにするにはどうするかという所も含めて、しっかりと考えていかなければならないのではないかと考えております。

品川委員

例を挙げますと、予想をつかないことは結構あります。宇部市内の話ではないのですが、夜中に畑へ入り白菜を採った話もありました。日本人では中々考えにくい様々な事例の犯罪があります。これは外国人に限った話ではないのですが、万引きもあります。犯罪があるというのはおっしゃるとおりです。ごみの話もそうですが、今後人数が増えてくればそういったことが増えてくるのではないかと思います。犯罪や交通ルールの話ですが、技能実習生を受け入れる所からの依頼もあり、防犯を扱う生活安全部門や交通を扱う交通部門で警察官による研修をやるということは今まで何度もあります。加害者・被害者にならないために、各署によってそれぞれそういった取り組みをやってきている所もありますので、警察内部の部門でまとまり出前講座の取り扱いはできると思います。

西山委員

ほとんどがバイクですが、運転免許を取る人もいます。バイクは結構買う人がいますが、私どもとしては非常に心配しております。事故を起こしたときのことを考えて保険に入るなどしているのですが、免許取得の試験は通ったので乗るなどとは言えません。外国人の交通事故が今後増えるのではないかと大変心配しております。無免許は別として、免許を持っている外国人の交通事故はケースとしてあるのでしょうか。

品川委員

交通部門ではないので、私の所では数は把握できかねます。

西山委員

無免許運転をしている人はいるのではないのでしょうか。最近昔と違い、技能実習生が「免許を取りたい」と言うのと「取るな」ということは人権問題上できませんので、良いと言うのですが、「自損事故での怪我は自身のことだが、人身事故となると大変なことになる」と伝えるのですが、あまり実感を持っていないようです。そういった事故が今から増えてくるのではないかと考えております。様々な問題が出てくると思いますが、ケースとしては交通事故が今から増えてくる気がしております。

品川委員

免許を取るにあたって、道路交通法などの講義がありますので、そういったことを理解した上で取るのが前提だと思います。

西山委員

日本語の勉強をして道路交通法を理解した上で取るのでしょうか、バイクの免許ですので不安があります。

田中(沙)委員

外国人の方から、免許を切り替えたいという相談や免許を取りたいという相談が入ります。交通センターと当相談センターを繋ぎ予約を取る手伝いをすることはあります。警察関係者からの話を聞いていると、外国人の方が犯罪と知らないから知

	<p>らず知らずのうちに犯罪をしてしまいトラブルになることが凄く多いと感じています。警察や市役所で、そういった部分の多言語化を進めていただきたいです。知らないからトラブルになりますので、言葉の面でのフォローは大切だと思います。</p>
川崎委員	<p>P34の部分で外国人の相談内容として、教育が特に挙がっていたかと思います。小学校や中学校に関する相談であれば、ヒアリング先として義務教育の方に関して状況を確認ができると思います。数はそんなに多くはないのかもしれませんが、子供の成長は早く、あっという間に年齢が上がります。大人もそうですが、学習しなければならぬ中で、言語が分からなければ年齢相応の発達など色々な所で不都合が生じてくるので、是非そちらも検討いただけたらと思いました。</p>
事務局	<p>小中学校の教育現場に聞いていきたいと思います。</p>
川崎委員	<p>小中学校で、日本語指導が必要な子供たちはどのくらいいるのでしょうか。</p>
事務局	<p>12人と聞いております。(小学校9人・中学校3人)。</p>
西山委員	<p>本当は行かなければならないが、行っていないという子はいませんか。</p>
事務局	<p>その可能性はあると思います。その数をどういうふうに把握していくかということはこちらでは今は何とも言えません。資料で説明した相談件数は延べ人数なので、同じ方が何度も相談しているケースもあると思います。もう一度内容を整理し、必要があればしっかりその辺りの所は明らかにしたいと思います。</p>
石崎委員	<p>ヒアリングの中で聞かれるとは思いますが、社会福祉協議会で自治会長の方々と一緒に地域づくりの面では、共生の社会を作っていく中では関わりがないというアンケートの結果も多かったのですが、関わって理解しあうことが大事だと思います。祭りに参加していただけるかとは思いますが、外国人との交流を主な目的とした行事はあまり見たことがないので、宇部市の中で外国人の方と交流できる行事がどれくらいあるのか知りたいです。社会福祉協議会が様々な支援をしておりますし、宇部市の中に「何でも相談窓口」というものがあるのですが、外国人の受付件数自体が少ないので外国人の方が相談に来たときに、携帯の翻訳アプリで対応をしたという話を聞きました。どこに相談を受付して良いのか分かっていない方もおりましたので、何かあったときに相談できる所が分かっていると安心できるので、その辺りをヒアリングして皆様が知っているかどうか分かればと思います。</p>
田中(沙)委員	<p>これから骨子を作る予定で、市役所内で調整をされると思いますが、山口県ではこれまでに山口市・長門市・下関市が多文化共生ビジョンを作られています。ほかの県や市の作り方をしていると、プランを作る過程の中で色々な課を巻き込んで作って欲しいです。外国人や多文化共生の話になると、観光交流課の仕事になりがちなのですが、私どもの所で昨年度は1,106件の相談がありました。相談内容は、妊娠・出産に関わる問題から年金や税金やお墓の問題など、多岐にわたっており、ライフステージにかけてすべての課に関わる相談が数多く寄せられております。しっかりと各課の意見・現場の声を拾い政策に盛り込んでいけば凄く実効性があるのですが、過去作られた、ほかの自治体の実態を見ると国際担当課ばかりが請け負っており、中々実用性のあるものではありませんでした。ですので、庁内でしっかり</p>

	<p>と課題と外国人の方のニーズを洗い出し骨子案を作っていただきたいです。また、川崎委員も言われておりましたが、外国人児童の日本語指導が必要な子供が物凄く増えており、国際交流協会へ寄せられた相談で教育に関する相談が凄く増えております。先日、上宇部小学校を見学させていただいたのですが、物凄く大変なようでした。今後は日本語が分からない子供への対応が物凄く大事な分野だと思いますので、教育分野のヒアリングやアンケートや分析をしっかりとお願いします。</p>
事務局	<p>市役所の中の声を聞きながら、一方で外国人の方や事業者の方などのニーズとリンクする形で見ていきたいと思っております。</p>
小寺委員	<p>日本語クラブは、1991年から外国人のための日本語教育・日本語講座ということで地道に活動してまいりました。現在は、宇部市から委託事業として請負って講座を開いております。地域の日本語教室なので、留学生だけでなく留学生の家族や特定技能など、住んでおられる方が幅広く来られるので、それぞれの立場で色々な問題を抱えているというのを肌で感じる事が多いです。ですが、自分たちで積極的に参加している講座なので、とても一生懸命に学んでおり意欲があります。日本語学校が宇部にはありませんので、そういった機会が少ないのですが、私どもの教室に来る学習者の皆様は大変熱心な学習者の方が多いです。ただ、私どもは初級対応の講座しかしていないので、一番上のレベルが終了した後に何度もリピーターで来る方はおられます。ですので、中級のクラス・上級のクラスを作ることができると、より皆様に日本語教育の場を提供できるのではないかと考えております。ですがスタッフが不足しており、色々な思いはたくさんあるのですが、活動を今は広げることができなくなっているため、外国人の方たちのニーズがあれば、初級クラス・上級クラス、そしてもっと学びたいという方たちに色々な機会を提供できればと思います。そして、私たちの活動は夜だけのクラスなので、先ほど学ぶ場所が合わない時間が合わない、様々なニーズがあると思うので是非色々な機会を広げることができたら、そういう教室がもっと増えていけば良いなと思っております。</p>
原委員	<p>先ほど、田中(沙)委員から上宇部小学校の日本語指導の見学をしたという話がありましたが、私は今上宇部小学校の校長をしております。今後ヒアリングを行っていく上で、教育現場における課題につきましてもヒアリングをしていただければということですが、上宇部小学校においても、ほかの小中学校においても日本語指導が必要な子供たちが増えてきているということで、かなり課題が増えておりますので、しっかりと聞いていただければありがたいと思っております。</p>
冨田委員長	<p>今日は、委員の皆様からの御意見がかなり頂けました。今日、色々御意見を頂いたことについては、次回こういう対応をしたというようなまとめを事務局でしていただきたいと思っております。</p>
事務局	<p>次回は9月中旬を予定しております。その間に、先ほど御説明したとおりヒアリングを行いますので、ヒアリングの内容を分析しながら、宇部市の地域ならではの課題を整理していきたいと思っております。その辺りをしっかりと整理をし、県の指針との方向性を確認しながら、素案・骨子を次の委員会の時に示したいと思っております。</p>

以上